

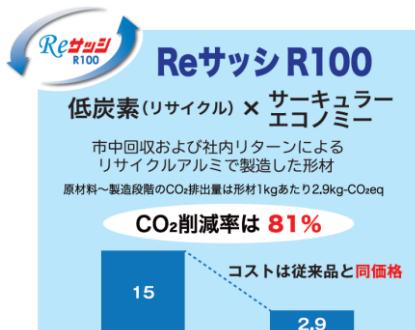


2026年1月28日

低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」「Reサッシ グリーン」が 環境製品宣言ラベル「SuMPO EPD」を取得 ～サーキュラーエコノミーと再生可能エネルギーの両輪で進めるアルミ建材～

不二サッシ株式会社（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：江崎 裕之 以下当社）は、当社のサステナビリティビジョン2050の取り組みの一環として、当社の低炭素アルミ建材「Reサッシ R100」「Reサッシ グリーン」の2製品について一般社団法人 サステナブル経営推進機構（SuMPO）の環境製品宣言（SuMPO EPD^{*1,2}）を新たに取得いたしました。

本認証の取得により、建設時に使用する建材のCO₂排出量^{*3}等の環境負荷を客観的なデータとして提示することが可能となり、低炭素建材を用いた建築物の環境価値向上に繋がります。



Reサッシ R100はリサイクルアルミを100%投入した形材であり、新地金から製造した場合と比べ、形材製造時のCO₂排出量を81%削減します。従来品と同価格で標準展開を進めています。

Reサッシ グリーンは新地金の製造時に再生可能エネルギー電力を使用する、リオティント社のグリーンビレット「RenewAl™」（リニューアル）の採用によりCO₂排出量を削減します。

当社は、建材を通じて環境に配慮した選択肢を広げることで、脱炭素社会に貢献する取り組みを継続してまいります。

*1. SuMPO環境ラベルプログラムSuMPO EPD（旧エコリーフ）は、一般社団法人サステナブル経営推進機構（SuMPO）が国際規格ISO14025に準拠し運営・管理を行うEPD（Environmental Product Declaration：環境製品宣言）プログラムです。LCA（Life Cycle Assessment）手法を用いて、製品の原材料調達から製造、輸送、使用、廃棄、リサイクルに至るまでのライフサイクル全体の環境影響を定量化し、第三者認証を与える制度の1つです。

*2. 当社の取得した認証では、最上流のボーキサイト～形材製造までの環境負荷算定。

*3. 建築物を「つくる・直す・壊す」過程で排出されるCO₂を指す「エンボディードカーボン」が、建物の環境価値の評価指標として注目されています。

関連リンク：当社従来品EPD（2025年8月取得）

<https://ecoleaf-label.jp/epd/2296>

以上

▼お問い合わせ

不二サッシの低炭素アルミ建材 Reサッシ

製造時のCO₂の発生を抑えた2種類の「Reサッシ」を展開



世界的に脱炭素へ向けた取り組みが加速する中、建築業界では低炭素建材の需要が急速に高まっています。

不二サッシグループは脱炭素化をリードするために1990年代にスタートしたリサイクル事業「リサッシ」の系譜に連なる第三世代として、リサイクルアルミ・グリーンアルミによる「Reサッシ」を2025年10月より順次展開しています。

Reサッシ R100

低炭素(リサイクル) × サーキュラーエコノミー

市中回収および社内リターンによる
リサイクルアルミで製造した形材

原材料～製造段階のCO₂排出量は形材1kgあたり2.9kg-CO₂eq

CO₂削減率は 81%

15 → 2.9
コストは従来品と同価格

Reサッシ グリーン

低炭素(再エネ) × 新地金(バージン材)

リオティント社の再エネ電力による
グリーンアルミで製造した形材

原材料～製造段階のCO₂排出量は形材1kgあたり7.5kg-CO₂eq

CO₂削減率は 50%

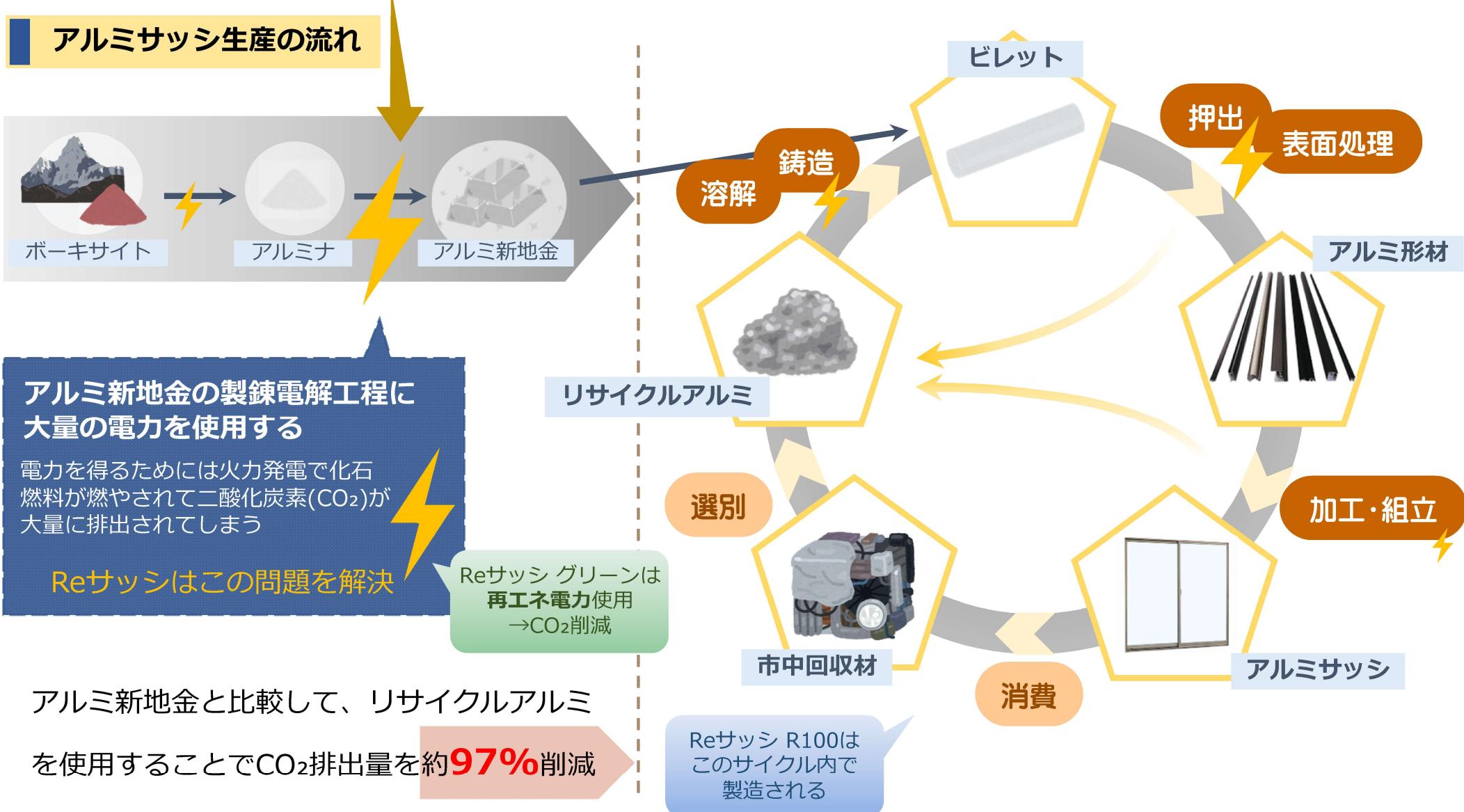
15 → 7.5



アルミニウムは電気の缶詰

アルミ新地金 **1t** を製造するためには、
1世帯の年間消費電力の3.8年分 の電力が必要になる

出典：(一社)日本アルミニウム協会「わが国の輸入アルミニウム新地金のLCIデータの概要」(2025年3月)
環境省「令和4年度家庭部門のCO₂排出実態統計調査 資料編(確報値)」





CO₂排出量削減の必要性

二酸化炭素はどこから排出されるのか？

二酸化炭素は化石燃料（石油、石炭、天然ガス）の燃焼によって排出される

人間が何の活動をするにしても、エネルギーを必要とするため、燃料を燃やす過程で排出されてしまう

→ CO₂の排出量削減は急務

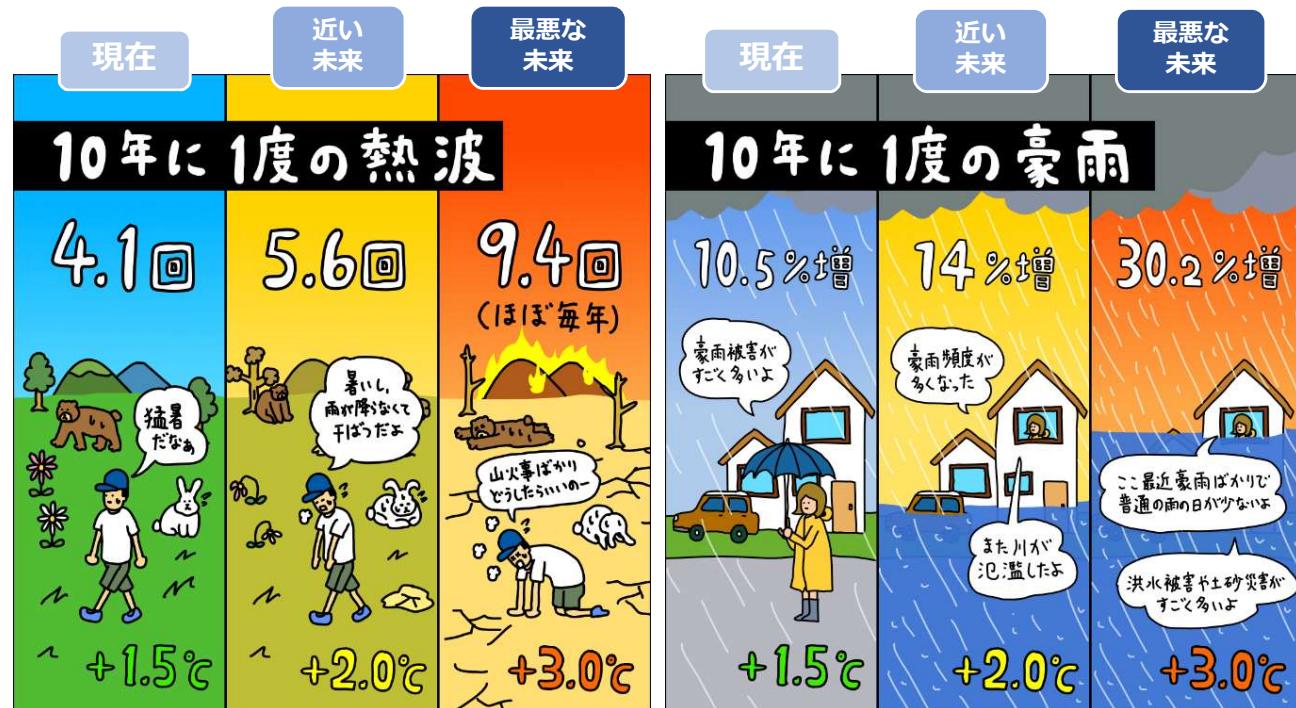


気候変動の深刻化

10年に1度の異常気象が頻発するなど、気温や雨の降り方（気候）が長期にわたって変化すること

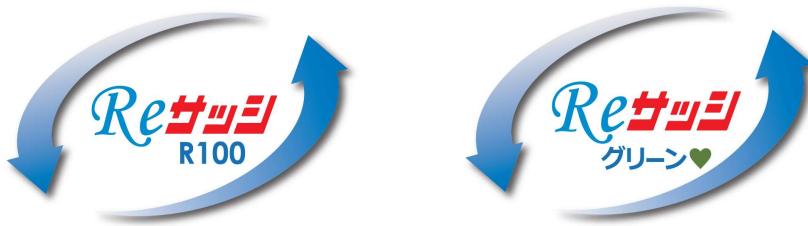
今食い止めなければ世界の気温は上がり続けること、豪雨などの激しい災害が増えることが予想されている。

→ 企業にとっても無視できないリスクとなる



出典：https://www.greenpeace.org/japan/news/story_58496/

- ◆ Reサッシ R100：市中回収および社内リターンによるリサイクルアルミニで製造した形材
- ◆ Reサッシ グリーン：再エネ電力によるグリーンアルミニで製造した形材



Reサッシは製造時のCO₂の発生を抑えた建材用アルミニ形材を2種類展開しています。

Reサッシ R100はリサイクルアルミニを100%投入した形材であり、従来品と同価格で標準展開を進めています。リサイクルアルミニを使用してもサッシとしての品質は変わりません*1。また、原料の供給については市中回収材と社内リターン材とあり、安定したルートの確保に努めています。

*1：リサイクル材を原料としないものと同様に、JIS(日本産業規格)による化学成分、機械的性質を管理の上生産するため、品質に遜色はありません。一般的に、アルミニウムの経年による金属疲労は、リサイクル時の溶解によりその組成がリセットされるものです。不純物についても、化学成分の測定で管理されます。

Reサッシ グリーンは新地金の製造時に再生可能エネルギー由來の電力を使用し、CO₂排出量を削減しています。グリーンアルミニとして、リオティント社のグリーンビレット「RenewAl™」（リニューアル）を採用しており、トレーサビリティを保証できます（右図）。

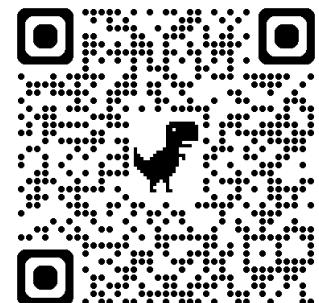
建築業界におけるCO₂排出量削減の展開

「建築物LCA（ライフサイクルアセスメント）の義務化」建築物・建設資材を含む建築分野は、世界のCO₂排出の約37%を占めると言われており、建築物の計画段階から解体までを含めたライフサイクル全体で削減が必要です。生涯にわたるCO₂排出量などの環境負荷を算定・可視化し、脱炭素化を促進することを目的として、建築物LCAの義務化は2028年度を目指して開始される方針です。

算定手法の統一化として、アルミニ形材製造までの温室効果ガス排出量について第三者認証の「SuMPO EPD」を取得しており、低炭素建材を用いた建築物の環境価値向上に繋がります。



リオティント社「RenewAI™」
排出量証明書（例）



不二サッシ
SuMPO EPD 一覧



窓から夢をひろげていきます
スニサツシ